

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年3月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0177400231		
法人名	沼田町		
事業所名	沼田町認知症高齢者グループホームなごみ		
所在地	雨竜郡沼田町旭町3丁目5番28号 (電話) 0164-36-2525		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年2月29日	評価確定日	平成20年3月6日

【情報提供票より】 (20年 2月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 11年 2月 24日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋建 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷 金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要 (2月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護 1	2	要介護 2	2		
要介護 3	4	要介護 4	1		
要介護 5			要支援 2		
年齢	平均 81.3 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沼田厚生病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームなごみは町営の施設で、同じく町営の養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、そして町社会福祉協議会の運営するデイサービスセンターと並んで、静かな田園地帯に広がる一帯に位置する。木造平屋の落ち着いた雰囲気の中で、中央が広い共有スペースで、その周りを居室や厨房、事務室が取り囲む形に配置されている。リビングと食堂が一体化した共有スペースは明るい日差しが広がって、利用者は静かにゆったり、思い思いの場所で時を過ごしている。職員は穏やかに、細やかな心遣いで優しく利用者に接している。職員相互の信頼関係もよく、家族からも深く感謝されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	家族、地域への広報、啓発活動は少しずつ動き始めている。時計の位置、カレンダーの位置は見えやすいように改善した。ケアプランの見直し期間は3ヶ月と定め、さらに随時の見直しを行っている。ホーム独自の便りの発行はまだ手が付けられていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	① 管理者と介護支援専門員が協同で自己評価原案を作り、職員会議を開いて項目ごとの説明、討論を行いながら最終的に管理者がまとめあげた。具体的な課題で改善に取り組むまでには至っていないが、日ごろの業務やケアのあり方について見直す、よい機会にはなっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はまだ発足していない。これから検討を開始するところである。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	大きな苦情があったときは苦情報告書に記載して施設長以下で討議し、解決に当たっているが、日ごろの小さな要望や苦情を積極的に吸収する体制にまでは至っていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	近隣の老人施設と紛らわしく、グループホームの意義が周辺住民に理解されにくいということもあって、ほとんど交流らしいことは行われていない。積極的に働きかけながら交流を広げてゆくことを検討中である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境の中で安心と尊厳のある生活を可能な限り自立してできるよう支援するとともに、地域とのつながりも深めてゆく、という内容の経営理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は共有スペースや事務所内の壁に掲げられ、職員の名札の裏に印刷されて、共有をはかる工夫がなされてはいるが、会議の場で取り上げるなど、実際の活動に生かすような取り組みにまではいっていない。	○	理念を、実際の業務や介護の中で生かせるよう、会議やカンファレンスで積極的に取り上げるなどの取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の老人施設と紛らわしく、グループホームの意義が周辺住民に理解されにくいということもあって、ほとんど交流らしいことは行われていない。積極的に働きかけながら交流を広げてゆくことを検討中である。	○	地域住民に積極的に働きかけながら交流を広げてゆくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と介護支援専門員が協同で自己評価原案を作り、職員会議を開いて項目ごとの説明、討論を行いながら最終的に管理者がまとめあげた。具体的な課題で改善に取り組むまでには至っていないが、日ごろの業務やケアのあり方について見直す、よい機会にはなっている。	○	自己評価については全職員が内容をよく理解した上で、作成に取り組むとともに、業務の改善につなげるよう、期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ発足していない。これから検討を開始するところである。	○	一日も早く開催にこぎつけられるよう、期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町営であるゆえ容易に連携できそうでありながら、かえってそれが災いして意識的な連携には至っていない。	○	役場の担当との緊密な連携を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には必要な都度報告し、来訪時にはケース記録を見せるなどして詳しく報告しているが、必ずしも十分ではない。ホーム便りの発行、職員異動の連絡、金銭収支報告の定期連絡はしていない。	○	ホーム便りの発行、職員異動の連絡、金銭収支報告の定期連絡は実施するよう、期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	大きな苦情があったときは苦情報告書に記載して施設長以下で討議し、解決に当たっているが、日ごろの小さな要望や苦情を積極的に吸収する態勢にまでは至っていない。	○	苦情や意見、希望を積極的に取り上げ、運営に反映させる工夫、努力とともに、家族の苦情を受け付ける外部機関の文書への明示、家族への周知を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	幹部職員は町の職員ゆえ、ある程度の異動は避けられないが、一般職員の異動はほとんどない。利用者が不穏になることに配慮してこれまで出入りに関して利用者に紹介はしてこなかったが、今後は本人の理解力に応じて可能な人にはきちんと説明する意向である。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画作成担当者はグループホーム協議会主催の研修会に年に3～4回参加しているほか、隣接する施設での研修に参加している。他の職員については特に計画的な育成は行っていない。	○	職員の計画的な育成計画を持つよう、期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画作成担当者がグループホーム協議会の計画作成担当者会議に参加して交流を行っているほかは、特に交流の機会はない。	○	もっと同業者との交流の機会を増やすと同時に、一般職員レベルでの相互訪問の機会なども設けるよう、期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族はまず地域包括センターに相談し、そこから紹介される場合が多いが、受け入れが決まった場合はしばらく日帰りや宿泊での体験を繰り返して慣れて納得したところで入居となる。入居の当初は職員が気配りして見守り、声かけ、傾聴に努め、気の合いそうなほかの利用者との仲介をする。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯ものたたみ、食事関連の手伝い、その他の家事をできるだけ分担してもらっているが、家事が楽しみとならず、苦痛となる場合も多く、対応に苦慮する。昔話もあまり喜ばれないが、温泉へ行ったりドライブしたりゲームをするときなどは一緒に心から笑い合える。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で表情や言動に気を配り、声をかけて訴えを察知するようにしている。短絡的に対応するのではなく、様々な可能性を考えて希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難なときは家族の情報も重要な手がかりにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見、希望を聞きアセスメントを行い、計画作成担当者が原案を作成し、職員全員でカンファレンスを行って介護計画を作成している。介護計画作成後は、家族に郵送したり、面会時に渡して説明を行い、家族からの意見があれば再度修正をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の期間で介護計画の見直しを行っている。入退院などで利用者の状態が変化した時は、随時介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、医療連携体制はとっていないが、協力医療機関の沼田厚生病院や、町内の歯科医への通院や送迎は職員が柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内のかかりつけ医への受診は職員が同行し、町外への受診は、家族に同行してもらっている。緊急時で家族の都合が見つからない場合は、臨機応変に職員が対応している。緊急時は、状況説明のためにも、職員が家族と一緒に病院に同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師がいないので、医療行為が必要になったり、入浴が困難になったりした時は事業所での対応が難しくなる事を入居時に、説明している。医師や家族と相談しながら、対応をその都度話し合っている。	○	入居時の説明だけでなく、本人、家族、医師などと時折話し合いを持ち、重度化や終末期の対応方針の共有が図られることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉がけに配慮し、名前はさんづけで呼ぶように統一しており、トイレ等への誘導は耳元で声かけをしている。個人情報に関する重要書類は、鍵がかかる場所に保管している。面会簿は、職員が面会者の名前を確認して記録している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴等は職員の決めた日課になっているが、それ以外は、利用者の希望にそって自由に過ごせるように柔軟に対応している。散歩や買い物、美容室の送迎など、利用者の希望を聞いてそれぞれの思いに柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いや味付けの好みなどを聞いて、食事が楽しくできるようにしている。食事の楽しみとして、月1回出前を取ったり、誕生日や年間行事の時は利用者の希望を取り入れた献立にしている。	○	現在は、食費負担の課題があり職員間の意見が統一されていないため、利用者と職員と一緒に食事をしていないが、食事を楽しむ環境づくりのためにも、一緒に食事が取れるように前向きに検討することを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、月、木の午前中に入浴日を決めているが、一人ひとりゆったり入浴できるように配慮している。入浴を嫌がる利用者には、職員を変えて声かけなどの対応をしたり、入浴時間や曜日を変えて入浴できるように柔軟に対応している。	○	入浴日や入浴時間帯を増やして、より一層利用者が希望に応じて入浴できるように期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	夏は農業経験のある利用者を中心となり、職員と一緒に稲作をして、楽しみを持って生活できるようにしている。近隣老人ホーム施設の行事に利用者と職員と一緒に参加し、日々を楽しく過ごせるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の声かけで散歩に行ったり、利用者の希望で近隣の散歩や、少し離れた田島公園、買い物などに出かけている。天気や季節に応じて、ドライブに出かけ外出を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の通院の送迎などにより、職員の勤務体制が変わり、利用者の動きに充分配慮できなくなる事もあるため、安全面を考えて現在は、日中も玄関に鍵をかけている。	○	利用者の行動パターンを把握し、対応できる体制作りと、鍵をかけない職員の意識改革を前向きに検討したい意向なので、日中は鍵をかけない自由な暮らしを支援できるような対応を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアル、連絡網を作成し、災害時の役割分担も職員間で確認している。消防署に連絡する訓練や、夜間の災害を想定して夜間勤務者による避難訓練を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連施設の特別養護老人ホームの栄養士に以前作成してもらった献立をもとに、職員が交代で献立を作成している。利用者の体調や好みに応じて量を調節して完食できるように配慮している。	○	食事や水分の摂取量は、利用者の体調によって記録しているが、健康管理の面からも、体調にかかわらず、毎日一人ひとりの摂取量を記録に残すことを期待したい。また、栄養の専門的なチェックを定期的に受けることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きにサンルームが設けられ、明るく暖かい日差しを受けることができ、居間は床暖房になっていて、冬季でも過ごしやすいうように配慮されている。ひな人形の描かれている掛け軸や桃の花が飾られ、季節感を感じられるよう配慮されている。居間に面する台所からは、炊事の音や臭いなど生活感が感じられるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや、生活スタイルに応じて使用できるように、居室の一部には畳が敷かれている。家族の写真や椅子、タンスなどの使い慣れた物や好みの物を持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。